

NEWS LETTER

Contents

- ・ 会長挨拶
- ・ 小村寿太郎侯生誕 170 年に寄せて
- ・ ポーツマスでの思いがけない体験
- ・ 令和7年度日南市高校生短期語学研修海外派遣事業について
- ・ 日南市高校生短期語学研修海外派遣事業報告
- ・ 年間活動実施報告

2026
春季号

VOL.16

ごあいさつ

務めを果たす人たらむ

表題は、ある高校の校歌の一節である。当会の会員にそこの卒業生が二人おられるが、先輩は宮崎県串間市出身の米寿、後輩は日南市南郷町榎原（よわら）出身で一回り下である。

先輩の本田武次（たけじ）氏は、工務店を経営し、成功者でありながら謙虚な方である。小村侯の青山墓所に生えている、鳥居の横の樹が茂り過ぎたので切ることに決まったところ、本田さんは自発的にご自分の車を持って来て、弟さんと向高博士さんと共に、さっさと梯子をかけ、手際よく作業を進められた。あれほどの手間をかけ、大仕事をされたのに謝礼は頑として固辞されたが、類似の事はこれだけではなかった。

一方、後輩の島田修氏は、リヤカー1台を引いての野菜売りから身を起こし、今や、デパート等に野菜、果物の店舗を展開するサクセスストーリー上の方である。当会が日南市の3高校の生徒を対象に短期

一般社団法人

小村寿太郎侯東京奉賛会

代表理事 会長 下 笠 直 樹

語学研修海外派遣事業を実施できるのは、ほかならぬ、島田さんの篤志のお陰である。

何か深いところからあのような思考・行動が出ているのではないかと思い、ある時、本田さんにお尋ねしたところ、やはり、校歌（鹿児島県立岩川高等学校）の一節に「務めを果たす人たらむ」というのがあるとのことだった。念のため、後日、島田さんにも伺ったところ、頷いておられた。

お二方とも、隔月に行われる小村侯の青山墓地清掃・参拝（毎年、1月を除く奇数月の最終日曜日）にお越し頂いており、寿太郎先生も清々しいお気持ちになられた後は、青山の一角で杯を交わしながら贅沢なひとときを過ごすのであるが、このような方たちと当会を通じて身近な仲間としてお付き合い願えることは、私の大きな誇りとするところである。

小村寿太郎侯生誕 170 年に寄せて

当会アドバイザー 甲斐陸教

はじめに

今年 2025 年は日南市飢肥出身の小村寿太郎侯生誕 170 年に当たります。

また、小村が日露戦争終了後のポーツマス講和条約に全権委任大使としてロシアと調印してから 120 年目でもあります。この節目の年に当たり、今年日南市では様々な記念行事が開催されました。

私は 9 年前にイギリス・ロンドン大学に留学し、「1902 年締結日英同盟の起源、要因及び経緯：なぜ英国は栄光ある孤立を放棄したのか、なぜ日本は英国を選択したのか」と題する修士論文を提出しました。その際、小村寿太郎の研究もしたこともあり、今年の記念行事にも案内を頂きました。

通常は年 1 回程度、小村についての講演依頼があるのですが、今年は日南市にある四季の森こども園（講演会場は同老人施設）、城下町飢肥まちづくり協議会（講演会場は小村寿太郎記念館、日南市教育委員会後援）及び清武町の安井息軒顕彰会（講演会場は安井息軒記念館）から、小村生誕月の 9 月から命日月の 11 月に掛け 3 回の講演依頼を頂き、それぞれ違った内容の話をしました。これは毎回参加される方がおられるためです。

小村寿太郎は歴史教科書には陸奥宗光と並んで必ず登場する名外交官です。その理由は、江戸幕府が西洋列強諸国と締結した不平等条約のうち、陸奥が領事裁判権問題を、小村が関税不平等問題を改正した功績からです。

ここでは小村寿太郎侯の生涯とその外交手腕を中心に述べたいと思います。

1 小村寿太郎の生涯

小村寿太郎は 1855 年に日南市飢肥で武士小村寛の家に生まれ、1911 年に 56 歳で没しました。

その生涯においては、9 歳年上の飢肥士小倉処平に引率され、17 歳で江戸の南校（東京大学の前身）に入学し、20 歳の時には明治政府の第一期官費留学生としてアメリカ・ハーバード大学法学部で勉学するなど、エリートとしての輝かしい道を歩きました。

その一方で、30 歳頃に家督相続で父の莫大な負債も背負うことになりました。それから 10 年間借金地獄に追われて赤貧生活を強いられ、その間、外務省では翻訳局に配属されたままの冷遇を味わう苦勞もしています。また 40 歳で腸チフスを患うなど、大病も度々経験しました。

2 小村寿太郎の功績

小村寿太郎が歴史に名を残す活躍をするのは、46 歳の時に桂太郎内閣で外務大臣に就任してからです。

小村は日英同盟締結、日露戦争後に全権大使としてロシアとポーツマス講和条約を締結、韓国併合そして不平等関税条約の改正と国家的偉業を次々に行います。

これらの偉業の一つ一つを詳しく解説するのが、今年の私の講演内容になりました。これら偉業を通して、小村の非凡な外交手腕を垣間見ることができます。

3 小村寿太郎侯の実力の証明

私は小村の功績を分かりやすく説明するために、二つの事実を挙げることにしています。

一点目は桂内閣の任期です。

その誕生の経緯は、前任の伊藤博文内閣が国会対策の困難さから政権を投げ出し、その後を引き受ける者がいない中で、長州出身の軍人桂太郎に白羽の矢が立てられました。

閣僚に大物政治家は誰一人おらず、小村など 3 人を除いて閣僚は山縣有朋系列の官僚達から成る桂内閣は、短命内閣、二流内閣、小山縣内閣などと世間や報道で評されました。

しかしその桂内閣は、任期 3188 日の安倍内閣に抜かれるまで 2886 日に及び最長記録を 100 年以上も保持し続けました。これは先述した日英同盟を始めとする、国民が狂喜する外交成果を小村が次々と達成したことによります。

ちなみに内閣任期第 3 位は佐藤栄作内閣の 2798 日です。

第二点は華族制度の爵位です。爵位は公爵、侯爵、伯爵、子爵、男爵とあり、公爵・侯爵は薩長出身者で占められる中で、小村のみが東郷平八郎、西郷従道、大隈重信などと並ぶ薩長土肥以外で侯爵の地位に上った人物です。

これは小村が国家的偉業を何度も達成し、その都度子爵、伯爵、侯爵と爵位を上げられたことによります。

そこで飢肥の人たちは尊敬と親しみを込めて小村を「小村侯」と呼ぶのが習わしで、私も日南市に行くときのように呼びます。

ちなみに勝海舟（東京出身）、陸奥宗光（和歌山出身）などは伯爵となっています。宮崎県関係者では上原勇作子爵（軍人、都城出身）、高木兼寛男爵（医師、宮崎市高岡町出身、バロン高木として国際社会で有名）がいます。

4 小村寿太郎の人物像

小村は非常に魅力的な人物です。この紙面では書ききれませんが、相手がウィットや李鴻章など強国の大男でも少しも物怖じしない胆力、緻密な外交戦略能力、抜群の語学力、借金地獄に屈しない不屈の精神力、そして何よりユーモア精神の持ち主でした。

二度目の外相就任後間もなく、長男と語った際には「私には重き石の墓を建てるな。自分は死んでも自由に寝返りがしたい。」とユーモアたっぷりに述べています。

実際、名誉や地位には関心が無く、多くの勲章も無造作にしまったままだったと言われています。

しかし東京青山霊園墓地にある小村寿太郎の墓は、本人の意に反し、外務省の部下たちが献金して鳥居のついた立派なものです。ここには大久保利通や乃木希典など多くの著名人の墓がありますので、上京の折には足をお運び下さい。

ポーツマスでの思いがけない体験

(宮崎県庁OBの「宮崎県庁友会報」から転載)

高橋明弘

昨年夏、孫に会うためにアメリカを訪れました。孫は昨年東部ニューヨーク州の州都でもあるアルバニーという街で生まれました。折角の機会と思い、私の出身地でもある日南市飢肥に生まれた小村寿太郎侯がポーツマス講和会議に臨んだ、同じ東海岸に位置するポーツマス市を訪れようと思いました。

ポーツマスは今から120年前、日露戦争で講和条約が結ばれた小さな港町で、事前にインターネットで町の博物館について調べてみると、その講和条約についての展示があることがわかりました。

ポーツマス講和条約は、日本の近代史の潮目となった条約で、その締結交渉のため、当時の外務大臣小村寿太郎侯が全権大使として臨んだことはあまりにも有名な話です。

吉村昭の「ポーツマスの旗」には、当時のロシアの南下政策に対抗するために、日英同盟の必要性を主張する小村侯の先見性や講和条約が成立するまでの苦勞が描かれています。

しかし、私の訪問日はあいにく休館日だったので、事前に博物館にメールで、「私は日南市出身で、郷土の偉大な外交官の足跡を調べたいので訪問したいです。せめてパンフレットだけでもいただけませんか」と伝えました。すると届いた返事は「日南市民は大歓迎なので、博物館を開けます」、思いがけない返事にたいへん嬉しく思いました。

訪問日は早朝、ボストン空港に到着後ポーツマス行きのバスに乗ったのですが、メールの返事をくれたSさんがポーツマスのバスターミナルまで車で迎えに来てくれました。

彼女は以前、姉妹都市交流事業で、日南市を訪れたことがあるそうで、博物館のあるダウタウンに向かう途中、しきりに巻き舌で、Komura-san, Komura-san, great diplomat と連呼しました。この時、宮崎から遠く離れたアメリカ東海岸ニューハンプシャー州ポーツマスがグッと近くなるのを感じました。

後でわかったことですが、Sさんは、ポーツマス講和会議の意義を日本、ロシア、アメリカの学者が学術的に討論する会議の広報を担当されている方でした。

博物館に着くと、早速受付の女性の案内で、2階にあるポーツマス講和条約の成立までの過程を描く展示を見学しました。展示のテーマを一言で表すと「講和条約の成立の陰にポーツマス市民の多大な貢献あり」ということに尽きると思います。

約1ヶ月の交渉期間中、市民は、それぞれの人的ネットワークを駆使して、晩餐会や社交パーティを催し、交渉が決裂しないように励ましたそうです。その一日一日の出来事が写真と英語、日本語の解説付きで展示されていました。

当時のアメリカ大統領セオドア・ルーズベルトは、この会議の仲介をしたことで、ノーベル平和賞を受賞していますが、真の受賞者はポーツマス市民ではないかと思われました。条約が成立した9月5日には、毎年博物館の前に市民が集まり、それぞれの手に持ったハンドベルを鳴らし平和を願う行事が行われています。日南市でもポーツマスの高校と姉妹校である日南学園高でこのイベントが行われています。

この地で条約が成立したことをポーツマス市民がいかに誇りに思っているかを知ることができました。歴史的な場所に対する地理的な興味だけで訪れたのですが、そこに現地の人が大きく関わったドラマが展開されたことを知って、何とも言えない感動がありました。

見学後、Sさんは、日露両代表団が宿泊した郊外にあるウェントワースホテルにも案内してくれました。

ホテルはニューグランドの美しい湖沼の中に佇んでいて、そこから両代表団は交渉会場の海軍工廠までボートで行き来したそうです。

司馬遼太郎は「アメリカ素描」の中で小村侯の逸話を記しています。小村侯は、講和条約成立後、ニューハンプシャー州を去る時、会議中に歓待を受けたことへの感謝の印として州に1万ドルを寄付し州知事を驚かせたそうです。ロシア代表のウィッテは、それを聞いて慌てて同額を寄付したそうです。

寄付金は、基金として受け継がれ、福祉施設の援助に使われました。外交官小村寿太郎の人柄が偲ばれる話です。展示にはこう書かれていました。

「交渉が膠着状態に陥った時、ポーツマスの人々は様々な社交行事を催して、和平を模索していた日露両政府代表団を励まし続けた。現代の国際関係を考えるにあたって、ポーツマスで繰り広げられたこの平和への取り組みを振り返ることで貴重な教訓を得ることができるのではないだろうか。」

最後に、思いがけない旅の体験を与えてくれたSさんに深く礼を述べ、ポーツマスを後にしました。

令和7年度日南市高校生短期語学研修海外派遣事業について

事務局長 金丸博司

本年も当会会員様の多額のご寄付により、昨年は1名派遣でしたが今年は各校より1名の選抜を受け、3名の高校生を令和7年8月7日(木)より8月20日(水)までの2週間、米国ボストンとポーツマスへ語学研修生として派遣することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

宮崎空港より出発、羽田空港ではJTB 担当者の佐野さん、添乗員の松岡さん、当会事務局の金丸で出迎え、すぐにリムジンバスにて成田国際空港へ、同空港では当会理事の石崎さんが出迎えてくれました。ボストンへのフライトは

全体的に気流が悪いところの通過時間が通常より長くなっており、定刻より遅い到着となり、空港からの送迎ガイドと、ドライバーレイモンドさんが温かく迎え入れてくれ、各ホスト宅へ送る。翌日からの利用交通機関の確認、見届け、土日の予定や各家庭の夕食時間などを打ち合わせ、翌日の9時に語学学校最寄り駅のDowntown Crossing 駅にて集合となる。

TALK (TALK SCHOOL BOSUTON) までは通りの名、昼食に使えるお店などを確認しながら到着。学校のニコールさんに出迎えられ、これからの学校のスケジュール、クラス分けな

全体スケジュール

月日	発着地 滞在地	現地 時間	交通 機関	スケジュール	食 事
1 8/7 (木)	宮崎空港発 羽田空港着 成田空港発	12:35 14:20 18:20	JL692 リムジンバス JL008	空路、羽田へ 着後、成田空港へ移動 空路、ボストンへ 【所要：12時間50分/時差-13時間】 ----- 日付変更線通過 ----- 着後、ホームステイ先へ ボストン泊	機内 機内
	ボストン	終日	専用車	*「TALK SCHOOL BOSTON」オリエンテーション *マサチューセッツ工科大学ウォーキングツアー ボストン泊	朝食 - 夕食
2 8/8 (金)	ボストン	終日		ボストン観光 *添乗員同行 ボストン泊	朝食 - 夕食
3 8/9 (土)	ボストン	終日		ボストン観光 (又はポーツマス観光) *添乗員同行 ボストン泊	朝食 - 夕食
4 8/10 (日)	ボストン	終日		ボストン観光 (又はポーツマス観光) *添乗員同行 ボストン泊	朝食 - 夕食
5 8/11 (月)	ボストン	09:00-13:10 午後		*「TALK SCHOOLS BOSTON」語学研修 *放課後アクティビティ 他国の生徒と英会話レッスン & ニューイングランド水族館ツアー ボストン泊	朝食 - 夕食
	ボストン	09:00-13:10 午後		*「TALK SCHOOLS BOSTON」語学研修 *放課後アクティビティ 自然史博物館ツアー ボストン泊	朝食 - 夕食
6 8/12 (火)	ボストン	09:00-13:10 午後		*「TALK SCHOOLS BOSTON」語学研修 *放課後アクティビティ フルデンシャル・センター (ボストン展望台) ボストン泊	朝食 - 夕食
	ボストン	09:00-13:10 午後		*「TALK SCHOOLS BOSTON」語学研修 *放課後アクティビティ フルデンシャル・センター (ボストン展望台) ボストン泊	朝食 - 夕食

月日	発着地 滞在地	現地 時間	交通 機関	スケジュール	食 事
8 8/14 (木)	ボストン	09:00-13:10 午後		*「TALK SCHOOLS BOSTON」語学研修 卒業式 & ボストン港クルーズ ボストン泊	朝食 - 夕食
	ボストン	終日		ハーバード大学ウォーキングツアー & ハーバード広場訪問 ボストン泊	朝食 - 夕食
9 8/15 (金)	ボストン	終日		ポーツマス観光 (又はボストン観光) *添乗員同行 ボストン泊	朝食 - 夕食
10 8/16 (土)	ボストン	終日		ポーツマス観光 (又はボストン観光) *添乗員同行 ボストン泊	朝食 - 夕食
11 8/17 (日)	ボストン	終日		ホストファミリーと 過ごす休日 (ファミリーデー) ボストン泊	朝食 - 夕食
12 8/18 (月)	ボストン	09:00	専用車	専用車にて空港へ	朝食 - 機内
	ボストン空港発	13:35	JL007	空路、成田へ 【所要：13時間35分/時差+13時間】 ----- 日付変更線通過 ----- 機中泊	朝食 - 機内
13 8/19 (火)	成田空港着	16:10		通関後、バス乗り場へ	機内
	成田空港発 羽田空港着		リムジンバス シャトルバス	リムジンバスにて羽田空港へ 移動(約80分) 着後、ホテルへ(約10分) ホテルチェックイン 羽田泊	- -
14 8/20 (水)	羽田空港	08:30	シャトルバス	シャトルバスにて羽田空港へ (第一ターミナル) 着後、搭乗手続き	朝食
	羽田空港発 宮崎空港着	08:50 10:00 11:40	JL689	空路、宮崎へ 着後、ご自宅へ	

※交通機関ならびに時刻は変更になる場合もございます。
※利用航空会社：JL = 日本航空

ど授業に関する説明を受け、校内案内では利用できる水給水場、レンジ、利用可能な場所を案内され、その後もう1つの日本人グループと共にMIT（マサチューセッツ工科大学）ウォーキングツアーへ先生1名同行で地下鉄にて出発し、MIT学生による校内案内で学内見学。最初はネイティブの速さの英語に戸惑っていたが、強い太陽光の中、知っている単語を拾ったりしながら真剣に聴いていたとの事でした。現地解散となり、帰り道の確認や翌日のポーツマス行きのバス待合場所も確認。ボストンに到着して、間もない時期に移動駅、手段が代わったのでかなり緊張していたが電車とバスに乗り継ぎ、ボストン内を移動する時は自分たちでも考えて、毎日強い日差しの中、元気に散策したそうです。

ポーツマス行きはSouth stationからバスで9時に出発。ポーツマスに到着後はタクシーにてThe John Paul Jones Houseへ移動。入場料支払い時に日南市から来たことを話すと大変喜ばれたとの事。館内の説明や2階のビデオの案内をしてもらい、当時の様子を伺える日用品を熱心に鑑賞。展示物は英文の下に日本語記載があり、理解の手助けとなった様子だったとの事で小村侯の事を多いに学ばれたことであろう。

授業はクラス分けされて参加。90分の授業で3レッスン、レッスン間は30分、ランチも30分。他国からの学生の授業中の態度や遅れて参加する様子に驚いており、日常の常識の違いの大きさは新鮮で衝撃だったようです。

その日の授業後、15:45にギル先生と学校を出発してプルデンシャルセンター（ボストン

展望台）へ移動。52階から見下ろすボンストンの煉瓦色の統制の取れている景色はとても美しく、みなさん写真をとり楽しんだとの事。クラスは色々な年齢の方々が多い中、話しかけられ日本から来ていることなど自己紹介しながら楽しんだとの事。全過程終了後に理解度確認テストがあり、三人共無事に各クラスで終了でき、卒業証書を受け取ることが出来ました。ピザとコーラで乾杯して午後のアクティビティに出かけ、学校から歩いてのボストンクルーズに参加。海上から街並みを眺めるのは最高の日となって卒業を祝ったとの事。次の日は授業無しでHarvard universityツアーのアクティビティに参加。9:30に学校前でバラッシュ先生と合流してツアーへ移動。ツアーは一般の方と一緒に学生の案内で大学校内へ進む。全て英語なので数字などを耳で聴いて頑張っていたとの事。アメリカの最古の大学の雰囲気は3人共気に入ったようで、綺麗な芝生と木々の中のレンガの建物の大学は素敵だったようです。

以上のように添乗員さんからも同様に聞いて非常に有意義な2週間を過ごしてくれましたことをご報告致します。



▶成田空港にて

日南市高校生短期語学研修海外派遣事業報告

日南学園高等学校 2年 田上 愛梨



▶ボストン空港着

8月7日から8月18日までの約10日間、アメリカのボストン州に滞在しました。初めての海外だったので、飛行機の中では「ちゃんとコミュニケーションが取れるだろうか」「すぐにホームシックになってしまわないだろうか」と不安や緊張感でいっぱいでした。しかし、最終日にはまだ帰りたくないと思うほど毎日が楽しく、次の日が待ちきれないほどワクワクし続けた10日間でした。その中で特に印象に残った出来事を3つ紹介します。

まず1つ目は、私のホストファミリーについてです。私のホストマザーの第一印象は「怖い」でした。初対面だったので、想像

していた印象とかなり違い、少し怖いと感じました。「この人とうまくやっていけるだろうか」と不安でした。しかし、一緒に過ごすうちに、その印象は少しずつ変わっていきました。私が英語で話すと、ゆっくり聞いてくれたり、最

寄り駅まで車で送ってくれたり、分からないことを教えてくれたり、毎日美味しいご飯を作ってくれたり。彼女はとても優しい人だと感じるようになりました。

最終日のファミリーデーでは、ホストマザーと一緒にショッピングに行き、その後トランプをしたりプールに入ったりして楽しみました。ホストマザーだけでなく、ホストシスター、ホストブラザー、飼い犬のミッキーとも仲良くなれました。

2つ目は、語学学校についてです。私たちは4日間、語学学校に通いました。私のクラスにはメキシコ、コロンビア、スペイン、台湾など、さまざまな国から来た生徒が集まってい

ました。4日間の中で、1日だけクラスメイトと交流するレッスンがあり、コロンビア人の友達ことができました。アメリカの学校は、日本の学校に比べてかなり自由で驚きました。授業中にお菓子やご飯を食べたり、スマホを使ったり、授業開始1時間後に登校する生徒が多かったりと、日本との違いを実感しました。

しかし、みんな分からないところがあれば積極的に先生に質問したり、先生が問いかけるとみんなで反応したりと、授業に積極的に参加していました。授業内容は日本と大きな違いはなく、主に文法を学びました。座って勉強するだけでなく、体を使って学ぶ授業も多



▶レストラン Nichinan

く、楽しく英語を学ぶことができました。

3つ目は、観光した場所についてです。10日間の間に、MIT大学やハーバード大学、FENWAY PARK (MLBグッズのお店)、協会、展望台、ボストンクルーズ船、ニューイングランド水族館など、さまざまな場所を訪れました。その中でも特に印象に残ったのは、ポーツマス市への訪問です。ポーツマス条約が結ばれ、日露戦争の終結に大きな影響を与えた歴史的な場所です。

ジョン・ポール・ジョーンズ・ハウスというポーツマス歴史博物館には当時の写真や映像、当時使われてい

た小物や衣服、ポーツマス条約を結んだ日本人外交官の1人、日南市出身の小村寿太郎侯が実際に使用した椅子、ポーツマス条約が結ばれるまでの時代の流れなどが日本語とともにたくさん紹介されていました。この場所に来て、改めて戦争による影響の大きさや小村寿太郎侯の偉大さを知ることができ、私達が今、平和に生きられているのはこの人たちのおかげなのかと実感することができました。

また、その近くに「NICHINAN」というお店があり、

とする姿勢を見せることで、ホストファミリーや店員さん、駅員さんとのコミュニケーションが取れたり、語学学校で友達ができたりと、たくさんの素晴らしい経験をすることができました。

自分から話しかけることや、行動することの楽しさ、アメリカと日本の文化の違いなど、座って勉強するだけではわからないことをたくさん学びました。たくさんの経験、そして出会いを通してたくさんの優しさや笑顔に触れることができました。アメリカで過ごした10日間を、勉強のモチベーションやこれからの人生にも活かしていきたいです。

日南との繋がりを感ずることができました。ポーツマスはボストンよりも穏やかな空気が流れる街で、非常に暖かさを感じました。お昼は、昨年ホームステイを受け入れた友達と会い、大きなピザを食べました。とても美味しかったです。

アメリカで過ごした10日間は、私にとって忘れられない貴重な時間になりました。英語で何かを伝えることは難しく、うまく伝わらないことや理解できないことも多かったです。それでも諦めずに自分から知ろう



▶ブルデンシャルセンター 52 階より



▶トークスクール前



▶ホストファミリーと記念撮影

日南市高校生短期語学研修海外派遣事業報告

宮崎県立日南振徳高等学校 2年 猪崎 ことり



▶成田国際空港にて

まず、私がなぜ「めざせ！小村寿太郎侯」日南市高校生短期語学研修海外派遣に応募したかということ、前にこの企画に参加した知り合いの話を聞いており次に募集が来た際は是非この企画に参加したいと考えていました。また、将来食に関する仕事に就きたいとっていて他国の食文化に触れ、たくさんの経験を体験し今の自分の視野を広げたいと思い応募しました。

この企画に参加できると知らされてからは、期待と不安が入り混じっていて複雑な思いでした。飛行機から降りると当たり前のことですが周りの言語が英語だということに気づき、アメリカに来たことを実感しました。着いてから最初に使った言葉は入国審査

官に言った「thank you」でした。なぜなら添乗員さんが私達に変わって色々なことを説明してくれたからです。それからはタクシーを使いホストファミリーの家に送ってもらいました。ホストマザーに対面し軽い自己紹介をし

た後に、いよいよ約 10 日間の一人の生活が始まるのかと思うと急に不安が込み上げ少しホームシックにかかってしまいました。ですが、家族や友達からの LINE やビデオ通話で日本からの実際の距離は遠いですが、近いと思うことができました。学校までの通学は約 1 時間と長い距離で不安でしたが、ホストマザーが学校までの経路図を作ってくれていたのが不安ながらも学校に行くことができました。ですが、通学の途中でたくさんの出来事がありました。初日にどこで降りるのか困っていたときに、眼科医を目指しているハニエルという方に出会いました。通勤通学の時間が合うときには集合場所までついて行ってくれとても心強かったです。また、バスや電車の中ではボストンについてやたくさんのお話をし私ももっと頑張って英語を話せるようになりたいと強く思える出来事にもなりました。また、通りかかった人や駅員さんなどたくさんの方が助けてくれ、バスの運転手



▶ジョン・ポール・ジョーンズハウスにて



▶スクールメンバーと記念撮影

さんはバスに乗るたびにどこに行くのか聞いていたため運転手さんからどこに行くのかなど教えてくれるようになり現地の人の温かさをたくさん感じる事ができました。学校では、一緒に行った日南高校や日南学園の子たちとも会うことができ、私と同じで不安な気持ちだったと聞いてみんなも同じだったと思うと少し不安な気持ちも和らぎました。私のクラスは、コロンビア・スペイン・中国・インド・エクアドル人などいろいろな国の人、しかも全員が年上の方でした。授業は日本と同じで文法についてや動画のセリフをリピー

トしたりオー・ヘンリーの「最後の葉」を訳しながら最後は全員にどんな内容だったのかを説明したりと盛りだくさんの授業内容でした。日本とは随分授業風景が違い二時間目から参加する人が多く、授業中に自分でYouTubeをみて勉強したり、食べ物を食べたり、スマホで違うことなどをしたりと、本当にみんな好きなことをして、さすが自由な国だなと思いました。授業が終わった後は、一緒に来た人たちとボストン観光をしました。色々観光しましたが印象に残っている

所2つ書こうと思います。1つ目は、ポーツマス市です。ポーツマス市は、日南市とゆかりがある場所です。小村寿太郎についてわかる博物館では、ポーツマス条約が結ばれた時代につかわれていたであろう服や武器・食器・ポーツマス条約の資料など歴史的なものが数多く展示されていました。それよりも私が一番気に入ったところは町並みです。ポーツマス市は港に近い街です。日南市とは風景は違いますが、なぜかノスタルジックさを感じさせてくれる街でした。2つ目は、マサ

チューセツ工科大学・ハーバード大学のウォーキングツアーです。世界的にも有名な大学に行って凄くテンションが上り、勉強のモチベーションも上がり楽しかったです。生徒が説明をしてくれるのですが単語単語しか分からなくて内容はそこまで分からなかったけど次回こういう機会があったときに説明を理解できるようになりたいなと思いました。私が一番気になっていた食については、ホームステイ先では、朝食はほとんどがワッフルやパンとピーナツバターで手軽に食べられるものでした。一緒に行った人達の家も似たような感じでした。夕食は、パエリアやホットドッグ・すごく大きい手作りピザなどで、比較的高カロリーなものだったという印象です。学校のある昼食では、ハンバーガーやサラダなどを自分で買って食べていました。観光の日では、ボストン名物のクラムチャウダーやロブスターロールなどを食べ地元の味を味わうことができ



▶小村侯使用の椅子



▶羽田空港にて

ました。ちなみに、知り合ったハニエルは私が日本から持ってきた味噌をあげたらすごく気に入っていました。また、クラスメートにお土産で持っていった抹茶味のチョコレートは大好評でした。全体の感想としては、拙い英語で心配でしたが、今ある翻訳アプリやマップアプリを上手に活用することで海外が敷居の高い場所ではないと実感できました。不安もありましたが勇気を持って行動することで自信もつき自分のスキル向上にもつながり、時には勇気を持った一歩が大切だということに気付かされました。この企画に携わっている方々に感謝をし、またこの企画がこれからも続くことを願います。

日南市高校生短期語学研修海外派遣事業報告

宮崎県立日南高等学校 2年 福嶋 陸



▶ MIT 校内にて

まず、この事業では振徳高校の猪崎さん、日南学園高校の田上さん、JTBの松岡さんとの四人で基本的に行動しました。三人ともとてもいい人で、この事業の中でとても力になってくれました。

次にホームステイについてです。ホームステイ先に行くときは初めての海外で、不安なこともたくさんあり、ドキドキしながらお家に行きました。ホストファミリーのゴールポーンさんが明るく招き入れてくれたので、とても安心できました。旦那さんや息子さんもはじめはとても怖かったですが、困ったときにすぐ助けてくれるいい人たちでした。ホストファミリーには主に登校のためのバスや電車の乗り方を教えてもらったり、帰ってきて一緒にニュースを見たりしました。

朝ごはんは自分でベーグルを温めて食べたり、インスタントの味噌汁を作ったりして初日以外は一人で朝を過ごしました。少し寂しかったですが、いい生活リズムで過ごすことができました。登校時は駅員さんに電車を確認してもらったり、周りの人に聞いたりして何とか学校にたどり着いていました。また、ファミリーデーではホストファミリーみんなでイオンのようなショッピングモールに行きました。息子さんに案内していただき、いろいろなお店を回りました。バスケットボールやアメリカンフットボールのプロ選手のユニフォームを扱っているお店が一番楽しかったです。

次にTALKというアメリカで通った学校についてです。学校では南米やカナダから英語を学びに来た人と一緒に文法や単語を中心に勉強しました。コロンビア人の三人組や17歳のアルゼンチン人と仲良くなりました。同



▶ 古い教会にて

世代の人はほとんどおらず、大人の外国人と簡単な英語を学ぶのがとても楽しかったです。外国人の授業を受ける様子は日本との違いがとても多く、遅刻は当たり前で先生も気にせず、授業中にジュースを飲んだり、軽食をとったりする姿に驚きました。昼休みは近くの店でハンバーガーを食べたり、タコスを取アウトして食べたりして過ごしました。

また、放課後は観光に行ったり、古着屋や靴屋、本屋に行って買い物をしたりしました。アメリカのマップは注文が難しく、とても苦労しました。また、ごはん屋さんのトイレは基本的に鍵がかかっている、店員

さんにパスワードを聞かないと使えませんでした。セキュリティがとても厳しいなと思いました。他にも水族館や科学技術館のような場所に行きました。水族館には100年以上生きている亀やサメとのふれあいコーナーなどがあり、科学技術館には静電気、光の屈折、テクノロジーなど様々な技術を生かした体験ができる場所がたくさんありました。

次に大学での体験についてです。学校に計画していただいて、MIT（マサチューセッツ工科大学）やハーバード大学に行きました。大学では実際に通っている学生に学内の施設を案内してもらったり、学生寮や教

会、銅像の歴史などツアーの中で教えていただいたりしました。アメリカと日本とで大学の仕組みや学生が頑張ることなど違いが知れてよかったです。

最後にポーツマス観光についてです。ボストンのサウスステーションからバスに乗って一時間半くらいでポーツマスに着きました。タクシー乗り場にいた人やタクシーの運転手さんがみんないい人たちで、とても印象に残りました。そして少し町を歩いてから、資料館に行きました。資料館の入口に大きな看板があり、

ごさがわかりました。また、資料館を見た後、もう一度町へ行ってご飯を食べたり、お土産を買ったりしているとき、何度か「Nichinan」と看板に書かれているお店を見つけ、姉妹都市としての日南市とポーツマスの関わりをととても実感できました。

私はこの海外短期留学の経験を生かし、よりグローバルに活躍できるような人材になっていけるよう、この留学で学んだことを忘れず、学校生活を送っていきたいと思います。



▶ハーバード大学にて



▶クインシーマーケットにて



▶科学博物館にて

年間活動実施報告

令和7年	4月19日(土)	通常理事会	参加人数7名
	5月16日(金)	日南市役所墓参	参加人数3名
	5月25日(日)	青山墓所清掃参拝	参加人数14名
	6月 8日(日)	第三回令和七年度総会	
		会場：両国二丁目会館	参加人数18名
	6月21日(土)	通常理事会	参加人数5名
	7月 4日(金)	NHK-BS『英雄たちの選択』墓所取材撮影立会	参加人数4名
	7月19日(土)	『在京宮崎郷土人会の集い』	参加人数2名
	7月27日(日)	青山墓所清掃参拝	参加人数18名
	8月 7日(木)	日南市高校生海外短期派遣	
	8月20日(水)		
	8月23日(土)	通常理事会	参加人数7名
	9月 5日(金)	ベル・リンギング	参加人数16名
	9月28日(日)	青山墓所清掃参拝	参加人数15名
	10月11日(土)	通常理事会	参加人数5名
	10月27日(月)	飢肥地区自治会・地区長東京視察	参加人数2名
	11月26日(水)	青山墓所清掃参拝	参加人数18名
	11月29日(土)	特別講演会	参加人数42名
		『ポーツマス条約の締結とその後の日本外交』 講師 冨塚一彦氏(『日本外交文書』編集委員会委員)	
	12月13日(土)	『めざせ小村国際塾』生14名の受け入れ	参加人数7名
	//	通常理事会	参加人数5名
	//	役員忘年会	参加人数8名
	12月31日(水)	青山墓所清掃参拝	参加人数1名
令和8年	2月18日(水)	通常理事会	参加人数6名
	//	役員新年会	参加人数8名



▶令和7年9月5日



▶令和7年10月27日



▶令和7年12月13日

小村侯青山墓所清掃参拝日のお知らせ

令和8年度の小村侯清掃参拝日程を次のように決定しました。
どうぞお気軽にご参加賜りますようお願い申し上げます。

第1回	5月31日(日)
第2回	7月26日(日)
ベル・リンギング	9月 5日(土)
第3回	9月27日(日)
第4回 命日	11月26日(木)
第5回	2027年 3月28日(日)

◆ 各日程内容

11:00 集合

場所 いたりや青山霊園茶屋

電話 03-3401-2475

港区南青山2-15-20 赤坂消防署ならび

11:00～

小村侯墓所清掃・参拝

12:30～

昼食・懇談会

お知らせ

「外交史料館」に置かれている来訪記念スタンプをご紹介します。
是非見学にいかれて小村侯とご対面下さい。



一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会

小村寿太郎 奉賛会

検索

〒130-0026 東京都墨田区両国2-11-1パルサー両国ビル2Fローヤル内 電話 03-3846-9030 FAX 03-6659-3084

E-mail: kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp 発行：一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会 発行日：令和7年3月 発行責任者：金丸博司

振込先：ゆうちょ銀行 店番 138 普通預金口座 1175855 名義 一般社団法人 小村寿太郎侯東京奉賛会



▲当会ホームページ
ぜひご覧ください。